

2004年度 中間決算説明会

2004年11月10日
大正製薬株式会社
副社長 大平 明

目次

2004年度中間期業績の概要と
2004年度通期の計画

セルフメディケーション事業

医薬事業

2004年度中間期業績の概要

*2004年10月6日修正値

	04年度中間期 実績（億円）	前期比増減		対予想* （億円）
		（億円）	（％）	
売上高	1,404	-59	-4.0	-1
営業利益	310	-7	-2.2	+5
経常利益	341	+3	+1.0	+6
当期利益	208	+11	+5.7	+13
EPS（円）	66.6		+9.2	

2004年度通期の計画

	2004年度通期 予想（億円）	前期比増減	
		（億円）	（％）
売上高	2,835	-29	-1.0
営業利益	540	-37	-6.4
経常利益	590	-22	-3.6
当期利益	345	-64	-15.7
EPS（円）	111.34		-12.9

セルフメディケーション事業

2004年度のセルフメディケーション事業環境

1. 小売り二極化の加速
 - － ドラッグストアの価格指向、PB指向
 - － 中小薬局・薬店の苦戦
2. 市場全体はマイナス4%（当社推計）
 - － 最大の薬効「風邪薬」は夏風邪が減少（14%減）
3. ドリンク剤
 - － 2004年度は台風などの天候不順により伸び悩む
 - － 他のカテゴリーとの競合激化
（特保、アミノ酸飲料など）

2004年度のセルフメディケーション事業環境

4. 特保市場の拡大

- － ビタミン剤市場は影響を受け縮小

5. 第二次規制緩和

- － 新範囲医薬部外品が発売

6. その他の影響

- － 消費税総額表示の開始
- － 割高感からくる買い控え

当社の状況

単位：億円

	2003年度 中間期	2004年度 中間期	前期比	2004年度 通期 (予想)	
				前期比	
セルフメディケーション事業	993	944	-5.0%	1,870	-0.6%
ドリンク剤	599	595	-0.7%	1,091	+1.4%
リポビタンシリーズ	548	538	-1.8%	973	+0.4%
リポビタンD	423	403	-4.7%	700	-4.0%
ゼナシリーズ	19	22	+15.8%	52	+13.0%
アルフェ他	9	13	+44.4%	24	+26.3%
感冒薬	128	116	-9.4%	278	-1.1%
胃腸薬	25	22	-12.0%	50	-7.4%
リアップ等	86	64	-25.6%	127	-17.0%
Livitaシリーズ	6	6	0.0%	21	+90.9%

2004年度の事業方針 (ドリンク剤)

1. ロイヤルカスタマーの定着
 - クローズド懸賞の実施
 - ・出荷200億本突破を記念して、7~8月に実施
 - ・今後も中期的に計画
2. 新規ユーザーの開拓
 - サンプリングの積極展開
3. 高付加価値品の発売
 - アミノ酸、豊富な生薬を配合
4. チャンネルごとに注力品を発売
 - 医薬品、医薬部外品の新製品を発売

2004年度の事業方針 (リアップ)

1. リアップ60mLへの注力
 - 新規ユーザーの獲得
2. フレッシュリアップの育成
 - 積極的なサンプリング
 - チャンネルの拡大(コンビニ等)
3. 女性用の発売に向けた準備
 - 男性用とは異なるアプローチ
 - シリーズ展開及びチャンネルの拡大
4. 市販後調査終了(2005年)後の戦略
 - 高濃度製剤、新剤形等

2004年度：SMG新製品発売（計画）

<p>< 第1四半期 > アルフェライト アルフェBB リポビタミンゴールド デントウェル [薬用] VC リポビタミンアミノ・アミノゴールド フレッシュリアップ</p>	<p>< 第3四半期 > リポビタミンこども パブロンうがい サモンコンドロバ イタリ・Sゴールド ドゥファイバー ゼナF-II ・ゼナF0-II 鼻炎薬他治療薬2～3品</p>
<p>< 第2四半期 > パブロンAG錠 プリザエース注入軟膏 リポビタミンG</p>	<p>< 第4四半期 > 医薬部外品ドリンク剤 治療薬2～3品 女性用リアップ（2002年12月申請）</p>

注：発売済みのもの（オレンジ色イタリック）を除き、すべて現時点での予定ですので、変更の可能性があります。

医薬事業

大正富山医薬品 2004年度の事業環境

- － 医療用医薬品市場 2%増
（納入価ベース：当社推計）
- － 市場に影響を与えた主要因
 - ・ 薬価改定の実施
 - ・ 後発医薬品の採用促進
 - ・ 医療費抑制策による高額薬剤の伸び悩み
 - ・ 高齢者の定率負担
 - ・ 被用者本人の自己負担3割による受診抑制
 - ・ 高血圧治療薬市場の拡大

大正富山医薬品の業績

単位：億円

	2003年度 中間期	2004年度		2004年度	
		中間期	前期比	通期（予想）	前期比
大正富山合計	400	395	-1.3%	830	0.0%
クラリス	124	114	-8.1%	273	-1.4%
パルクス注	69	64	-7.2%	129	-2.3%
ペントシリン	31	33	+6.5%	65	+1.6%
アンカロン	21	25	+19.0%	47	+11.9%
ロルカム錠	24	24	0.0%	48	+6.7%
トミロン	20	21	+5.0%	52	+6.1%
オゼックス	12	14	+16.7%	30	+3.4%
メトリジン	12	12	0.0%	22	0.0%
リーマス	12	12	0.0%	22	-4.3%
ソロン	12	11	-8.3%	22	-4.3%
ルプラック	8	9	+12.5%	18	+12.5%
パシル	4	6	+50.0%	12	+33.3%

大正富山医薬品 2004年度の事業方針

1. 営業体制の効率化

- － 営業所の集約、MRの適正配置（幹部含む）
- － 最重点品目の拡充
（クラリス, パルクス, ペントシリン, オゼックス）

2. 感染症領域での国内2位の確保

- － 呼吸器学会ガイドラインなどの活用
- － サイクリング療法などの浸透
- － スーパーMRの育成を通じたMR活動の強化

3. 2004年度目標

- － 売上目標 830億円（前年度 830億円）

4. 中期目標

- － 1200億円の早期達成に向けた活動
- － 感染症、炎症免疫領域での国内トップ

新薬パイプライン (2004年10月31日現在)

(大正)

開発段階	製品名・開発コード	薬効・適応症	自社・共同開発	備考
申請中	リアップ	壮年性脱毛症・女性用(一般用医薬品)	自社	適応拡大
	クラリス	レジオネラ感染症	アボットジャパン共同	適応追加
フェーズ3	T-3811(経口)	ニュータイプのキノロン系合成抗菌剤	富山化学共同	
フェーズ2	NT-702	閉塞性動脈硬化症、腰部脊柱管狭窄症 に伴う間歇性跛行	日産化学共同	
	(米国:NM-702)	(閉塞性動脈硬化症に伴う間歇性跛行)	(日産化学共同)	(米国P2)
	パルクス	腰部脊柱管狭窄症に伴う間歇性跛行	自社	適応追加
フェーズ1	SUN N8075	脳梗塞急性期	第一サントリーファーマ共同	米国
	TS-011	脳梗塞急性期	自社	米国
	TS-021	Ⅱ型糖尿病	自社	
	TS-022	アトピー性皮膚炎	自社	
	クラリス	マクロライド系抗生物質・ 小児用(ドライシロップ)の製剤改良	アボットジャパン共同	

(富山化学)

開発段階	製品名・開発コード	薬効・適応症	自社・共同開発	備考
申請中	T-614(コルベット)	関節リウマチ(DMARD)	エーザイ共同	南アフリカ:P2a終了(自社) 韓国:東亜製薬へ導出
	パシル	レジオネラ感染症	三菱ウェルファーマ共同	適応追加
フェーズ3	T-3811(経口)	ニュータイプのキノロン系合成抗菌剤	大正製薬共同(経口)	海外:シリング・プラウ コーポレーション(米国) へ導出
フェーズ1	(注射)		自社(注射)	
フェーズ2	T-588	アルツハイマー型痴呆症・ 脳血管障害後遺症治療剤	自社	英国:P2a終了(自社) 導出検討中

オリジナルテーマの概要

開発コード	開発段階	国内 / 海外	特長・適応症	剤形
TS-011	P1実施中	米国	脳局所血流改善作用を持つ 脳保護薬 脳梗塞急性期	注射
TS-021	P1実施中	国内	型糖尿病における 食後高血糖の改善	経口
TS-022	P1実施中	国内	アトピー性皮膚炎の かゆみを抑制	外用

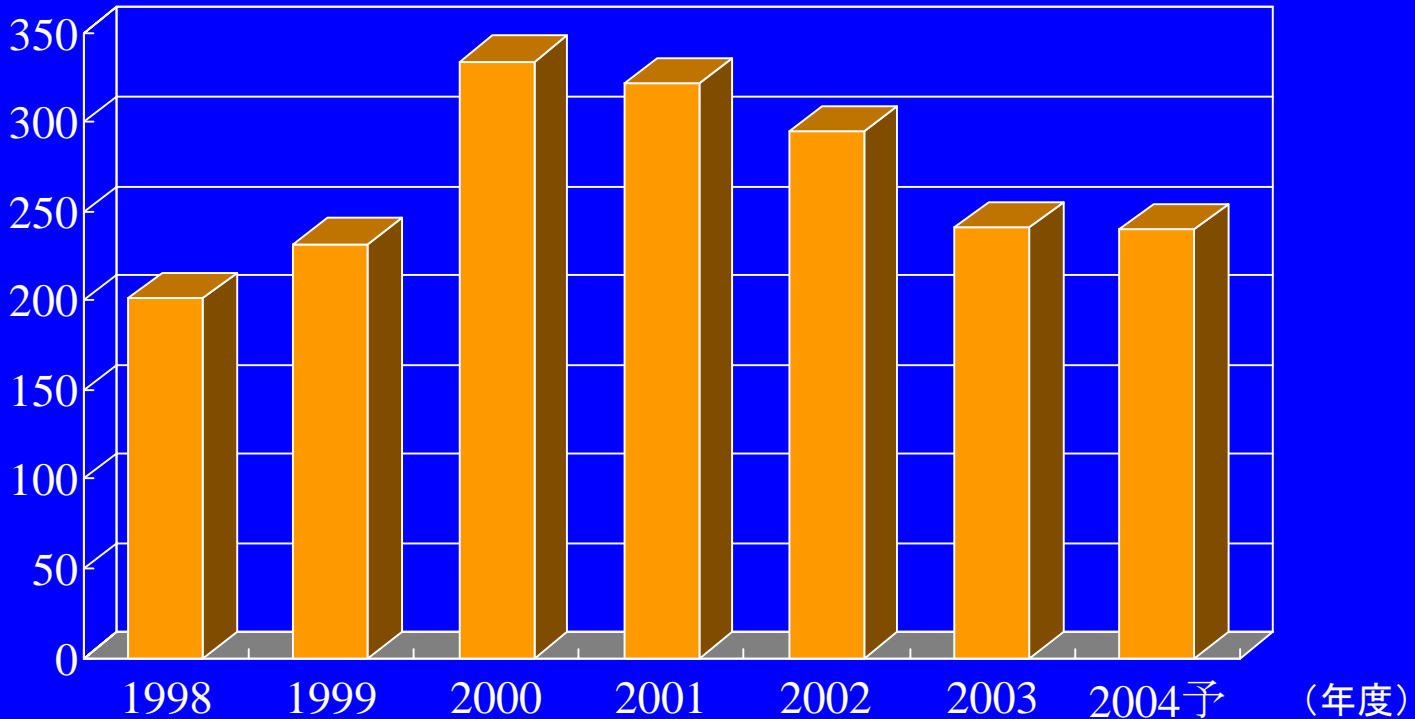
海外大手企業への導出、共同開発テーマ

MGS化合物(統合失調症) : ムルクへ導出(前臨床ステージ)

CRA系化合物(うつ・不安) : J&J(ヤンセン)との共同開発(前臨床ステージ)

研究開発費の推移

(億円)



開発費用を見直した結果、2004年度の研究開発費(予想)を
270億円から240億円で修正